

前期学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

遅くなりましたが、前期学校評価の結果をお知らせいたします。紙面の都合上、保護者の学部別アンケート結果のみを掲載し、教職員と保護者全体のアンケート結果を比較したグラフと、児童生徒のアンケート結果のグラフはホームページに掲載させていただきます。

◆回答率

※1 家庭に 1 組配布しています。

	保護者	児童生徒	教職員
回答数	2 1 6	4 5	1 4 6
回答率	8 7 %	1 8 %	9 7 . 3 %

◆アンケート結果（保護者）

- ・重要度は、5 段階のうちの「重要である」と「やや重要である」、実現度は「よく出来ている」と「大体出来ている」の回答を合わせた割合（%）を学部別に表示しています。

質問項目	重要度			実現度		
	小	中	高	小	中	高
① 「個別の包括支援プラン」に基づく教育の充実						
児童生徒は、目標や意欲、達成感をもって活動している	95.2	97.7	90.6	88.7	81.4	75.5
教職員は、児童生徒に適切な言葉遣いで支援をしている	93.6	97.7	91.6	90.3	88.4	81.2
教職員は、児童生徒の学習の成果や努力について適切に評価している	95.2	97.7	91.5	90.3	88.4	86.8
教職員は、学校教育目標や学校の取組について保護者にわかりやすく説明している	93.5	97.6	90.6	85.5	86	84.9
保護者は、授業参観・懇談などにできるだけ参加している	92	95.2	86.8	83.9	83.7	72.6
保護者は、学校と協力して家庭でも教育活動を進めている	95.2	95.2	88.7	79	60.5	68.8
保護者は、学校での子どもの様子を、よく知っている	98.3	100	88.7	83.9	74.4	72.6
② 児童生徒一人一人にとって安全安心で、意欲の高まる学習環境づくり						
校内や教室は、清掃され美しく衛生的である	98.4	100	90.5	87.1	81.4	87.7
教材や備品の整理整頓、安全・事故防止に配慮している	98.4	100	90.5	83.9	86.1	85.9
③ ルール、マナーへの意識						
児童生徒は、挨拶や身だしなみ、身体の健康に留意して学校生活を送っている	95.1	100	89.7	88.7	85.7	84.9

児童生徒は、ルールを守り、友達を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている	95.2	100	88.7	83.9	85.7	81.8
教職員は、児童生徒の規律ある生活習慣・ルールを守る態度の育成を図っている	93.6	100	88.6	88.7	88.1	81.1
教職員は、服務規程を遵守し、厳正に職務を遂行している	87.1	97.6	88.7	80.6	83.4	76.4
④ 校種間連携と交流及び共同学習の推進						
園や小・中学校との引き継ぎが確実に行われ、継続した支援ができています	95.1	100	84.9	72.6	59.5	62.2
交流及び共同学習では、児童生徒は楽しんで意欲的に活動している	82.3	100	84.9	72.6	75.6	74.6
⑤小・中・高一貫した指導支援 社会参加の実現						
地域社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための視点が教育活動に反映されている	90.3	97.6	85.8	45.2	59.5	65.1
保護者、担任だけでなく、関わる指導者で児童生徒の実態や学習内容、進路方針等の共有ができています	95.2	100	87.7	58.1	64.2	66.1
児童生徒の年齢や適正に応じた進路学習や関係機関との連携ができており、適切な進路指導ができています	95.2	100	88.7	48.4	69.1	66.1

◆分析結果

【①「個別の包括支援プラン」に基づく教育の充実】

「児童生徒は、目標や意欲、達成感をもって活動している」の項目では、保護者全体（以下保護者）では 80%が肯定的な回答（よく出来ている、大体出来ている：以下同じ）をされ、教職員は 90.4%と差がありました。また「教職員は、児童生徒に適切な言葉遣いで支援をしている」の項目では、保護者の肯定的な回答は 84.7%、教職員は 84.2%でした。

子どもたちは身近な大人を見て、成長していきます。我々教職員は子どもたちの見本となるよう、行動や言葉遣いに気を付け、指導していかなければなりません。また、保護者の自由記述欄に教職員の言葉遣いについて、「言葉遣いの悪い先生がいる」等のご意見をいただきました。教職員の（あまり出来ていない・出来ていない）の割合は 14.4%で教職員自身が日常の言葉遣いや指導を振り返り、反省する機会になったと考えます。

「保護者は、授業参観・懇談などにできるだけ参加している」の項目について、保護者の肯定的な回答は 76.4%、教職員の肯定的な回答は 84.2%でした。また、「保護者は、学校と協力して家庭でも教育活動を進めている」の項目について、肯定的な回答は、保護者は 68.9%、教職員は 76.7%でした。（あまり出来ていない・出来ていない）と回答された保護者が 20%を超える割合となりました。保護者の自由記述に『学習、生活、それぞれのわが子との関わり方を話がじっくりできたらうれしいです。子どもを真ん中に学校、保護者、連携して成長を促していけたらと思います。』というご意見をいただいております。教育は家庭だけ、学校だけでは難しいと考えます。家庭と学校、ともに手を携え、子ども達の成長を喜び合える関係を築くとともに、連携を進めていきたいと考え



ています。

「保護者は、学校での子どもの様子を、よく知っている」の項目について、保護者の肯定的な回答は75.5%、教職員は81.5%と教職員が上回っていました。毎日の学習の様子を連絡帳、学年だより、学校だより、ホームページ等で情報発信しております。今後も、適時、的確に情報をお知らせできるよう、取り組んでまいります。



【②児童生徒一人一人にとって安全安心で、意欲の高まる学習環境づくり】

「校内や教室は、清掃され美しく衛生的である」の項目では、保護者の肯定的な回答は85.7%、教職員の肯定的な回答は84.9%でした。また「教材や備品の整理整頓、安全・事故防止に配慮している」の項目について、保護者の肯定的な回答は84.3%、教職員の肯定的な回答は89.1%でした。

学校では毎月、環境整備日や学校安全日を設けています。ご意見をいただいた各階トイレ（水アカ、ほこりが気になる）や校内の清掃の仕方を振り返るとともに、子どもたちが安全に、安心して学校生活を送れるように、事故防止に留意し、気を引き締めていく必要があると考えます。

児童生徒の「責任を持ってまかされたことをやっている」という項目の肯定的な回答が95.7%であったことは、日々の当番・役割活動、清掃活動を児童生徒が責任感を持って全うしていることが伺えます。教職員が各自の校内においての役割意識を持ち、その姿勢を見せることが子どもたちの活動の見本となり、学習環境を整えることに繋がっていくと考えます。

【③ルール、マナーへの意識】

「児童生徒は、挨拶や身だしなみ、身体に健康に留意して学校生活を送っている」について、保護者の肯定的な回答は84.2%、教職員の肯定的な回答は86.3%でした。「児童生徒は、ルールを守り、友達を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている」について、保護者の肯定的な回答は81.9%、教職員の肯定的な回答は87.6%でした。「教職員は、児童生徒の規律ある生活習慣・ルールを守る態度の育成を図っている」について、保護者の肯定的な回答は83.3%、教職員の肯定的な回答は91.1%でした。

児童生徒の「友達となかよく過ごせている」の項目における肯定的な回答は91.3%で、子どもたちが人を大切にして、認め合い、良い関わりをもって学校での生活を送っているということが伺えます。また、「挨拶を自分からしている」の肯定的な回答は91.3%、「遅刻や忘れ物をしていない」の肯定的な回答は82.6%でした。この回答は児童生徒が挨拶など主体的に活動していること、遅刻や忘れ物などについて自分自身を見つめ、振り返る力が身についていることが伺えます。先にも述べましたが、家庭と教職員が連携し、ともに子どもたちの育成に協力して取り組んでいかなければならないと考えます。



「教職員は、服務規程を遵守し、厳正に職務を遂行している」について、保護者の肯定的な回答は78.3%でした。この結果を深く受け止め、今後も教職員が教育公務員としての自覚を常に持ち、保護者からの信頼を回復できるように職務を全うしていかねばならないと考えます。

【④校種間連携と交流及び共同学習の推進】

「園や小・中学校との引き継ぎが確実に行われ、継続した支援ができています」について、保護者の肯定的な回答は64.4%，教職員の肯定的な回答は67.8%と低い割合でした。保護者は学部別に見ると、小学部が72.6%，中学部が59.5%，高等部が62.2%となっており、確実な引き継ぎが行われ、継続した支援がされている、と感じている保護者は小学部に比べ、中・高等部の方が少ないという結果です。また、「交流及び共同学習では、児童生徒は楽しんで意欲的に活動している」について、保護者の肯定的な回答は73.2%，教職員の肯定的な回答は77.4%と低い割合でした。どちらの項目も保護者、教職員とも肯定的な回答は似通った割合となっています。



校内においては、個別の包括支援プランや給食サポートカード、身体学習サポートカード等の資料の活用の充実を図り確実に引継を行いたいと考えます。また、居住地校交流や学校間交流は学部が上がるにつれ、少なくなっている現状があります。交流及び共同学習の中で、適切な支援のもと、子どもたちが生き生きと活動することが、互いの学びになり、啓発にもつながっていくと考えます。

【⑤小・中・高一貫した指導支援 社会参加の実現】

「地域社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための視点が教育活動に反映されている」について、保護者の肯定的な回答は67.4%，教職員の肯定的な回答は71.9%でした。「保護者、担任だけでなく、関わる指導者で児童生徒の実態や学習内容、進路方針等の共有ができています」について、保護者の肯定的な回答は62.5%，教職員の肯定的な回答は76.1%でした。「児童生徒の年齢や適正に応じた進路学習や関係機関との連携ができており、適切な進路指導ができています」について、保護者の肯定的な回答は60.7%，教職員の肯定的な回答は70.5%でした。

このグループでは、どの項目も肯定的な回答が60%台と低いですが、小学部から中・高等部へ進学するにつれ、割合は増加しています。

小学部では、身近な人・もの・ことへの関心を広げ、中・高では集団での活動から地域へ、さらに社会参加へ向けて子どもたちは学習の場を広げていきます。一貫した進路についての考え方を保護者・教職員とともに確認し、教育活動に反映させていかなければならないと考えます。



以上が前期学校評価の結果です。この結果につきましては、第2回学校運営協議会で協議を行い、委員の方々から、教職員の年齢別の回答傾向を出して分析することや、何をするのかといった具体的な改善策を挙げて取り組むこと、学校が行うことや家庭でできることなど保護者と連携し取り組むことの大切さなど、様々なご意見をいただきました。

後期の学校評価アンケートは、1月上旬に実施する予定です。よろしくお願い致します。